

情報通信審議会 情報通信技術分科会  
新世代モバイル通信システム委員会（第21回）

－ 議事概要 －

1 日時

令和3年4月12日（月）15:00～15:30

2 場所

WEB会議

3 出席者（敬称略）

（1）委員等

森川 博之（主査）、三瓶 政一（主査代理）、岩浪 剛太、内田 信行、大岸 裕子、  
上村 治、河東 晴子、児玉 俊介、小西 聡、藤本 正代、藤原 洋、町田 奈穂、  
三好 みどり、渡辺 望

（2）オブザーバ

加藤 玲子（独立行政法人国民生活センター）、下村 雅彦（株式会社三菱総合研究所）、  
中村 隆治（富士通株式会社）、福家 裕（日本電信電話株式会社）

（3）総務省

柳島 智（技術政策課長）、  
布施田 英生（電波政策課長）、宮良 理菜（同課周波数調整官）、  
翁長 久（移動通信課長）、五十嵐 大和（同課新世代移動通信システム推進室長）、  
大野 誠司（同課課長補佐）、柏崎 幹夫（移動通信課第二技術係長）、  
高木 世紀（移動通信課システム企画係長）

4 議題

事務局より、参考資料21-1（新世代モバイル通信システム委員会 構成員一覧）について構成員の肩書き等の変更を踏まえ、更新をした旨について、報告があった。

（1）委員会報告（案）「2.3GHz帯における移動通信システムの技術的条件」に対する意見募集の結果について

事務局の大野移動通信課課長補佐より、資料21-1（委員会報告概要（案））及び資料21-2（委員会報告（案））、資料21-3（委員会報告（案））に対する意見募集の結果と当該意見に対する委員会の考え方（案）、参考資料21-2（資料21-2の修正箇所ハイライト版）について説明がなされた。また、以下の意見交換があった。

大岸専門委員：ダイナミック周波数共有は非常に有用な技術であると思うが、今後、放送事業用や携帯電話用途以外のシステムにおいても、ダイナミック周波数共有を取り入れる可能性はあるのか。

事務局：総務省では、2.3GHz帯以外の周波数においてもダイナミック周波数共有の導入を検討しており、そのなかでは、例えばFWAと携帯電話の共用というものも対象になっている。今後、ダイナミック周波数共有の対象が拡大されていくことはあり得ると思われる。

大岸専門委員：承知した。

## (2) その他

全体を通して、特段の追加の質疑・意見はなかった。最後に森川主査より、今回資料にある修正を反映した案を委員会報告及び委員会の考え方として取りまとめ、4月20日(火)の情報通信審議会 情報通信技術分科会(以下、分科会という。)において一部答申案件として、森川主査より報告する旨、周知があった。また、事務局より、本件について、分科会にて一部答申を受けた場合には、制度整備等を進めていく予定である旨、周知があった。

以上